

女子生徒が地元企業調査

八戸、工大二、八学光星、ウルスラ高参加



キックオフミーティングで企業の担当者から事業概要の説明を聞く高校生たち

八戸、工大二、八学光星、ウルスラ高参加

青森県三八地域県民局は7月27日、「38(さんぱち)ローカルディスプレイプロジェクト」と銘打った企画をスタートさせた。三八地域の女子高校生が企業を訪問し、地元企業が展開する事業内容や働く意義などを調査。一連の活動で感じたことをまとめた上で会員制交流サイト(SNS)などで発信し、若者の地元定着を目指す。(須田山裕太)

事業は昨年度に続いて2年目。県立八戸高と八戸工大二高、八戸学院光星高、八戸聖ウルスラ学院高の4校から15人の女子生徒が参加した。流通業や医療福祉関連、電気工業など15の企業と団体が生徒を受け入れる。

生徒は五つのグループに分かれ、各企業を訪問。社員へのインタビューなどを通じて仕事のやりがいや魅力を見つけ、その魅力をe-book(電子書籍)やインスタグラムなどで発信する。事業の集大成として来年2月に八戸市の「はっち」で成果発表会を開く予定という。

27日は同市のYSアリーナ八戸でキックオフミーティングが開かれ、事業に参加する高校生と企業の担当者が顔合わせ。高校生は各企業から事業概要の説明を受けた。八学光星高1年の小村千鶴さん(15)は「地元に住んでいても企業の仕事内容は分からないことも多い。(同事業が)将来に役立てられれば」と笑顔を見せた。